

中沖地区の棒踊り

中沖地区の棒踊りは、1914年に起きた桜島の大噴火で家を失った垂水市牛根地区の住民が中沖へ移り住み、その後地域の方々に伝承したものだそうです。

お祝い事のたびに踊られていましたが、人口の減少に伴い、しばらく途絶えていたものを、1995年の中沖小学校のPTA活動において復活させました。

今回、棒踊りを披露したのは、『中沖キッズ盛り上げ隊』としてボランティア活動や棒踊りの継承に取り組む中沖校区の児童・生徒です。昨年は、約20年間途絶えていた、地域の祭りの復活にも一役を担いました。



長なわとび

地域対抗の長なわとびは、時間内に何回跳べるかを競うものです。

参加者は、声を掛け合い、息を合わせながら、チームで団結して跳んでいました。

地域が一丸となり、楽しく競う姿が見られ、回数を増すごとに、『地域の絆』が深まるように感じました。



凧づくり

凧づくりは、青少年育成アドバイザーなどを務める尾崎誠さんを講師に迎え行われました。

尾崎さん指導のもと、子どもたちは、型枠に沿ってビニールをカットし、骨組みとなる竹を取り付けました。その後、思い思いに凧をデザインし、凧糸を取り付けて完成させました。

子どもたちは完成した凧をさっそく屋外で揚げて楽しんでいました。

